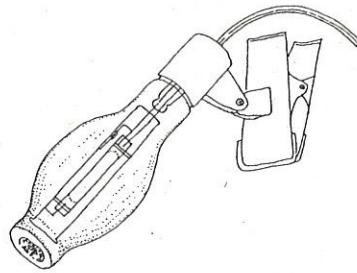


すっかんぽ

☆ 研究室だより No.16

1993年 9月号



水銀灯に集まる 生き物たち

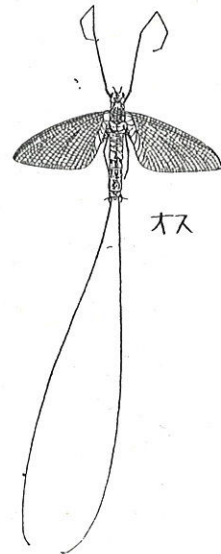
1993年9月19日、夜が白々と明けかけるころ、川の中から湧くように出てきた。無数の昆虫が、顔面めがけて吹雪のようにぶつかってきた。顔や首すじが痛い。

時刻は、午前4時55分、アミメモドキの羽化は、今年最高のピークに達しようとしていたのである。

こうした大発生は、茨城県石下町の鬼怒川では、かなり前からごく普通に見られる現象で、その死体は、橋の上に数十cmの厚さに降りつもり、交通渋滞を引き起こすこともあったらしい。

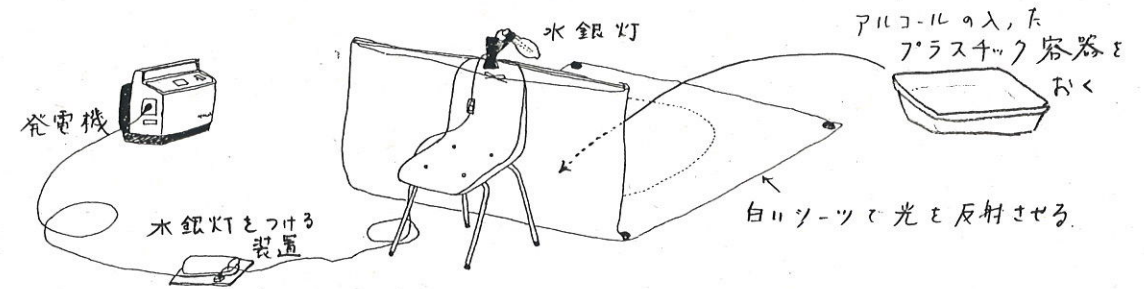
ところが、この昆虫、地元では、誰でも知っていたのに、まだ名前のついていない、新種だったのである。

去年の9月に、そのことが発見されてから、とりあえず、アミメモドキ（アミメカゲロウに似ている虫）と仮の名前がつけられ、どんな一生を送っているのかを、宇都宮大学 中村研究室チームが調べることになったのである。



オス

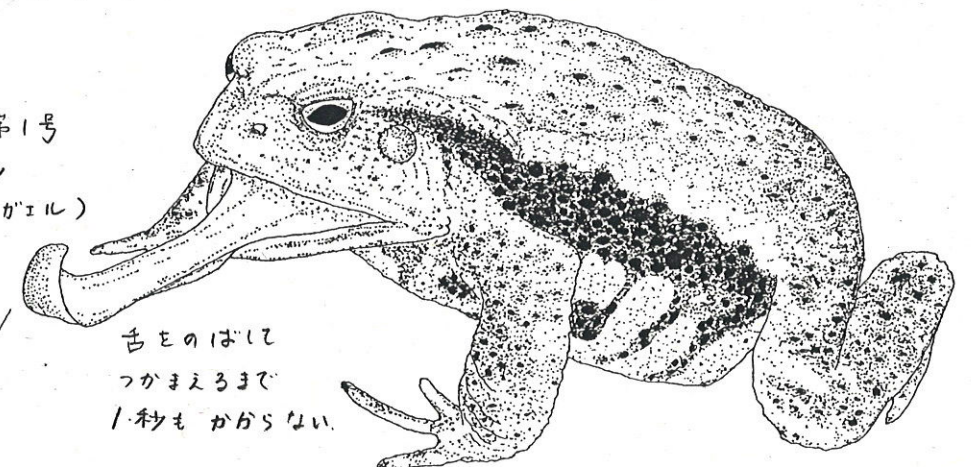
このアミメモドキの特徴は、朝、まだ暗いうちに羽化すること、その羽化の様子を知るために、ライトトラップという方法を使うことにした。つまり、もともと光に集まる性質があるので、ライト（水銀灯）をつけて、強制的に集めてしまうのである。



ライトトラップ作戦は、7月中旬～10月にかけて、数日おきに実施しているのだが、（現在も継続中）け、こうつらいものがある。

午前1時40分ころに起きて、石下町へ車で約1時間、鬼怒川に着いたら、すぐにライトトラップをセットし、水銀灯をつけるのである。そして5分おきにプラスチックの容器（これが、いわゆる、トラップ＝わな）に入ったアミメモドキの数を、オスメス別に数えるのだ。その数が100とこえると、もうその場では、数えきれず、ビニール袋につめて、家で数えることになる。ビニール袋がずりり重くなる時、数えるのに数時間かかることもある。そして、時には、アミメモドキ以外のお客さんが、光につられてやってくるのである。（後半へつづく）

★お客さん 第1号
ヒキガエル
（アズマヒキガエル）



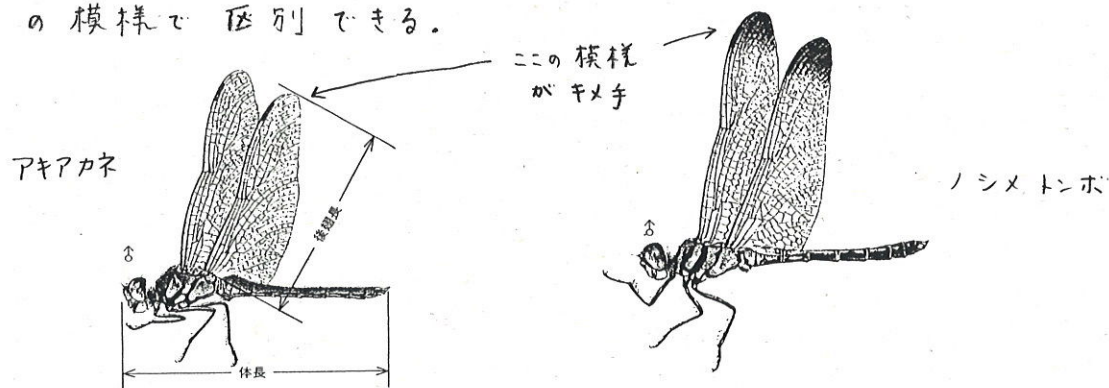
舌をのばして
つかまえるまで
1秒もかからない。

☆ お客さん その1 ヒキガエル

毎回 決まった時刻になると、ヒキガエルがやってくる。
どうやら、ライトトラップの場所が、なわばりの一部になっているらしく、
集まってきた アミメモドキを ねらっていた。最初は、近よ
と 逃げていたが、だんだん 逃げなくなり、舌をすばやく
伸ばして、満腹になるまで 食べて 明るくなるころ、決まった方向
に 帰っていた。はかなかの 律義者であった。

☆ お客さん その2 ノシメトンボ

3時すぎに ライトをつけると、すぐ 集まってきたのは、このトンボ
だった。8月下旬が 一番多く、10匹以上 飛んできたこと
もあった。このころは、まだ 赤くないが、9月中旬には、成熟し、
赤トンボとなる。代表的な 赤トンボの アキアカネ とは、翅の先
の模様で 区別できる。



小学館「野外探検図鑑」より

☆ お客さん その3 謎のフィリピン人

8月13日の お客さんは、今でも忘れられない 恐怖の体験だった。
午前3:50ころ、一人で 採集をしていると 突然、一人の フィリピン
人が 目の前に 現われた。言葉は、かたことしか 通じないが
“いったい何を やっているのか 知りたい” と 聞いてきた。そして、その
男も フィリピンで 昆虫を 研究していた、というのだ。しかし
どうも 目つきが おかしく、時おり、うすら笑いの ようなものを
みせていた。助けを 呼ぼうにも、辺りは ま、暗で 誰も
いない。しかも 背中は 息怒川で 逃げ場はない。

もしかしら、殺されるのでは、という 恐怖心が 頂点に 達した 4
時18分ころ、その男は、「こんな所で さびしくない?」と せま
てきて いきなり、私の 急所を さわったのであった。思わず
「やめろー。あ、ちへいけー」と になると、その男は、や、と 自転
車で 立ち去ったのであった。この 謎の フィリピン人 事件 以降、
採集には 必ず 2人以上 で いろいろ という ことにな、たのである。
とんだ お客さん だった。

☆ お客さん その4 のら犬

謎の フィリピン人 事件の 恐怖が さめやらぬ 8月18日、今度は
一匹の のら犬が まとわりついてきた。どうも 人にかわれていた 犬
らしく、妙に なれなれしい。しばらくして、姿が みえなくなり 車
に 物をとりに もどり ドアを開けると、何と、そいつが 助手席に
すわって、こっちを みていたのである。これも、死にそうになるほど
びっくりした。開いていた 窓から 入、たらしいのだが、昔、人にか
われていた時、よく 車にのせてもらっていたのだろう。よく 考
え、と、かわいそう、な、お客さん だった。(その後、一度も みていない)

☆ お客さん その5

9月21日 午後7時、福島市内の 阿武隈川で アミメカゲロウの
採集をしていると、2人組の 男から、“何を 調べているのか”と 質問
された。話をきくと、彼らは NHK 福島 の ディレクターと
カメラマンで 取材させてほしいというのだ。こんなことは 初め
てなので 緊張して、わけもなく 顕微鏡を のぞいている 所を
撮影 されてしまった。10分間の ローカル 番組「ふるさと
発見」? で 紹介するのだ そうだ。しかし、福島でしか 見られず、
放送日 も 聞くのを 忘れてしまった。(“京都で見よ”という 友人がいた)

☆ お客さん その他

3回に1回は、ドブネズミが 現われた。け、こうデカくて、たくさんくると、
食われそうで 怖い。時々、イタチも 現われた。水銀灯の光
が、こんなにも 動物たちを 引きつける 魅力があるとは、知らなかった。